研修便り

高知市教育研究所教職員研修班
平成28年７月19日発行　　No.85

平成28年度　第１回人権教育主任研修会　　平成28年５月16日（月）実施

研修Ⅰ【講義】「性同一性障害についての理解と児童生徒に対する対応について」

講師：大阪医科大学　　康　純　准教授

日本文学で描かれた性差意識
「日本書記」「古事記」などで性差意識について寛容に描かれていた

西洋の歴史
同性愛は宗教的ないしは道徳的な罪（Sin）とされ，同性愛を病理化（精神疾患）と捉えていた

現代は，同性愛への脱病理化の考えが進む

⇩

性同一性の発達

第１段階：Gender labeling(性別ラベリング)
自己や他者の性別を男であるのか，女であるのかラベル付けすることができる段階

第２段階：Gender stability（性別安定性）
性別が時間を経ても安定していることを理解することができる段階

第３段階：Gender consistency（性別恒常性）
表面的な特徴が変わっても性別は変わらないことを理解することができる段階

性別違和をもつ児童生徒に対する理解と援助

子どもに対する対応

診断をつけるのではなく，本人の具体的な希望が受け入れられるように関わっていくことを基本的な方針とする

実際の関わり方の三つのポイント

⑴　自分の性別違和を受け入れ，表現しても大丈夫であると感じてもらうこと
⑵　親に子どもの性別違和を受け入れてもらい，それを表現できる環境を整備してもらうこと
⑶　環境を整備するために積極的に学校に働きかけること

性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応について
※文部科学省　平成27年４月30日（抜粋）

項　目	学校における支援の実例
服　装	自認する性別の制服・衣類や，体操着の着用を認める
髪　型	標準より長い髪型を一定の範囲で認める（戸籍上男性）
更衣室	保健室・多目的トイレ等の利用を認める
トイレ	職員トイレ・多目的トイレの利用を認める
授　業	体育又は保健体育において別メニューを設定

子どもたちそれぞれの違和感の強いところは異なっており，さほど違和感の強くない部分に対して過度に介入しない。

研修Ⅲ【実践発表】人権教育の実践報告　高知市立一宮小学校　植野　慎司　教諭

研究課題　　**各教科等における人権教育の推進**
研究テーマ　**児童の人権意識を高める授業方法**　～同和問題をテーマにした人権学習の実践を通して～
取組の実際　同和問題をテーマにした人権学習において，授業方法の研究を進める
⑴　「識字に学ぶ」…識字学級生と出会い，その生き方に学ぶ
⑵　「厳しい差別を受けてきた人々」…渋染め一揆の学習を基点にさかのぼり，学習する
⑶　視察研修，地域フィールドワーク
研究成果　同和問題をテーマにした人権学習は，児童の人権意識の向上に効果があった。勤務校の研究と関連させ６年生の学習のなかに研究を取り入れるように更に研究・改善を進めていく。

【受講者の感想】
・　日本の性差に対する思想変化の歴史背景を知ることができた。
・　子どもたちは，それぞれで性差の違和感の強いところが異なっているので，個に応じてサポートしていくことが大切だと分かった。

４年経験者研修　課題等研修Ⅰ（小・中）

平成28年5月31日（火）実施

目的　教員としての自覚と経験に応じた授業及び学級経営等の指導力と実践力の向上を図るとともに，教員としての資質・能力の向上を図る。

関わり合い，高め合う授業の土台となる学級経営

講師：高知大学　鹿嶋　真弓　准教授

学級経営RPDCAサイクルを確立し，関わり合い，高め合う授業の土台となる学級経営力を磨くためには，セルフマネジメント力を高める「メタ認知」が大切になります。

一段上から自分自身を見ている自分

セルフモニタリング
自分の認知や行動をチェック

「メタ認知」

セルフコントロール
状況に合わせて認知や行動を修正

自然に行動している自分

シミュレーションシート（学級経営指導案）を使用して，現在地からめざす学級像に向けたアプローチを考えました

シミュレーションシート（例）

めざす学級像（例）
固定化された人間関係をなくし，互いのよいところを理解できるクラス

具体的な行動（例）
「〇〇さんて，意外と〇〇な（よいところ・すごいところ）があるんだなぁ。」といったような言葉が児童生徒から出る
※　めざす学級像に向けて，一定期間内にどういう言動が出てくればよいかを考える

現在地（● 課題 ／ 〇 リソース）（例）
- ●　固定化された人間関係であまり話さない
- ●　この人はこんな人と決めつけている
- 〇　いじめや仲間はずれなどはしない
- 〇　言われたことはやろうとする
- ※　現時点での学級のアセスメントを行う

アプローチ　意外な一面を発見しやすい活動例

①　『不思議な絵の提示』【説得】　*なるほどなぁ*
「確かによく見ると鳥にも見えるなぁ・・・」

何に見える → → アヒル！ウサギ！鳥・・・？

②　【体験的気付き→納得】　*こうやればいいんだ*
「よく見ると，今まで見えなかったことが見えるかもしれないね」

③　『二者択一』【楽しい活動】　*やってみよう*
「今日はこの活動をやります。５番はあなた自身でオリジナルの質問を作ってください」

④　振り返り
⑤　シェアリング
}【達成感】　*私にもできた*
「〇〇さんて，こんな意外なところがあるんだと思った」

※　この順番で活動を仕組む。納得させる気付きを仕組んだうえで楽しい活動を行うことが大切

☆　他にもこんな活動を行いました
「ひらめき教室」
知的交流＝考え抜く，考え続ける，友達と解決する。学級開き，運動会，職場体験などのバージョンがあります。

【二者択一】どちらかを〇で囲んでください。　氏名（　　）

1	あなたならどっちになりたい？	社長	副社長
2	願いがかなうならどっちの人生を選ぶ？	天才	努力家
3	おとなになって住むならどっち？	田舎	都会
4	今，あなたが欲しいのはどっち？	時間	お金
5	（オリジナルの質問を記入）		

【受講者の感想】
- 学級経営を考えていくなかで，まず学級の課題やリソースをしっかりと分析し，それをもとにこの１年間でめざす学級像を具体的な姿でもつことが必要であると分かった。さらに，そのめざす学級像に向けて，どのようにアプローチしていくかについても教えていただくことができた。学級に応じたエクササイズを行うことで，認め合い，学び合うことができ，お互いがより近付いていけることが分かった。
- 課題を把握する際に，主観的になっていないかということや子どもとの意識のズレを認識しておかなくてはいけないと思う。「Q-U」や「あったかアンケート」等で客観的に課題と子どもたちとの意識のズレを確かめることが大切であると考える。

ご意見・ご感想を高知市教育研究所　教職員研修班までお寄せください。